# 宇宙へ 十勝から広がる夢

## 整備進む多目的航空公園

**大樹町**

【大樹＝吉良敦】二〇〇四年の完成を目指し、日本、ロシア、アメリカ、欧州などが共同で進める国際宇宙ステーションの建設が、昨年十一月から始まった。文字通り「雲のかなた」だった宇宙空間は、今や手の届く世界になりつつある。大樹町多目的航空公園（町美成）で行われている科学技術庁航空宇宙技術研究所（航技研）による日本版無人スペースシャトルHOPE―Xの開発実験も、宇宙との距離を縮めるために不可欠な実験だ。昨年十一月に行われた小型双発機ドルニエによる実験は、同公園滑走路が舗装されたこともあり、これまで以上に大きな成果を得、今年も各種実験が行われる。また、同航空公園はパラグライダーやスポーツカイトによる大会など住民参加の各種イベント会場としての利用も期待されている。

多目的航空公園の除雪された滑走路で着陸航法実験を繰り返すドルニエ（昨年11月）

### 「宇宙飛行機」の機器評価が中心

大樹町多目的航空公園では、二〇〇二年三月末まで航技研が中心となってHOPE―Xの開発実験が行われる。HOPE―Xは、当初二〇〇〇年度中にH2Aロケットを使って打ち上げられる予定だったが、実験データの不備などにより三年遅れの二〇〇三年度中の打ち上げに変更された。同機は「宇宙の中の飛行機」とも言われ、建設中の国際宇宙ステーションへの物資輸送や人工衛星の放出などさまざまな用途が考えられている。

同公園での実験は、今後ますます利用価値が高まるであろうこの「宇宙飛行機」に搭載する各種機器類の評価実験が中心。無人の飛行機が衛星からの電波などを受信して、計算通り着陸できるかどうかが開発に向けての大きなポイントで、航法機器装置が実用できるかどうかなどが試されている。

### 舗装滑走路好評 離着陸ぐっと楽

昨年は小型双発機ドルニエによる実験が六月と十一月の二回行われた。この間、同公園滑走路（幅三十ﾒｰﾄﾙ、延長千ﾒｰﾄﾙ）が舗装され、十一月の実験は、降雪に見舞われながら「町が迅速に除雪してくれたこともあり、雪による大きな影響はなかった。六月の実験以上のデータが収集できた」（航技研・小野孝次計測研究室長）という。

同時に、舗装された滑走路の運用評価実験も行われた。その結果「着陸時、地面の影響による機体のぶれがなくなり、離着陸がぐっと楽になった」（航技研・照井祐之飛行統括官）と、舗装された滑走路の評価は高かった。

今年はドルニエが大がかりな改修工事を受けるため、代替機での実験となる。一九九七年八月に同公園で飛行実験を行ったビーチクラフト機を使うことが予定されており、各種航法実験が再度行われる見込み。

### スカイスポーツ各種競技に最適

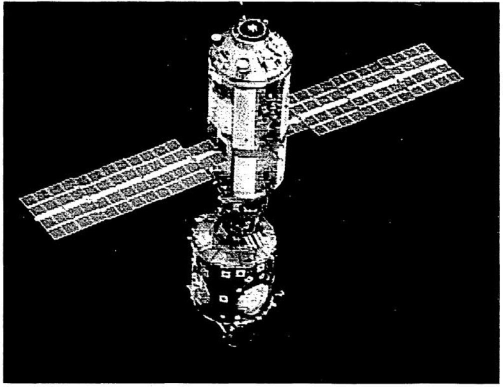
また、今年は、滑走路が舗装されて迎える最初の年で、町民による同公園の活用も期待される。毎年、同公園ではペットボトルを飛ばすコンテストを開催しているが、このほかスポーツカイト、パラグライダー、ウルトラライトプレーン、ラジコンヘリなど、各種イベント大会の開催地としてすでに数団体から問い合わせが寄せられている。

昨年八月には東京や埼玉で活動しているスカイスポーツクラブ「トライクラブ空界」（藤丸昌樹代表）のメンバー約十人が来町。約一週間、ウルトラライトプレーンやモーターパラグライダーなどを楽しんだ。藤丸代表は「空からキツネやシカが見え、すばらしい景色。できれば引き続き利用したい」と気に入った様子だった。

大樹町の伏見悦夫助役は「子どもたちが参加でき、科学や宇宙に興味を持てるようなイベントやスカイスポーツ大会を開きたい。せっかく舗装したことだし、町民はもとより十勝全体で利用していくことができれば」と話している。

ウルトラライトプレーンなど各種スカイスポーツによる利用も期待されている（昨年8月、大樹町多目的航空公園で）

## HOPE―X 今年も各種実験



日本、アメリカ、ロシア、欧州などで建設が始まった国際宇宙ステーション【AFP＝時事】

### 大樹町の航空宇宙産業基地誘致活動の歩み

| | |
|---|---|
| 1985年９月 | 北海道航空宇宙産業基地研究会議設立 |
| 86年４月 | 大樹町航空宇宙産業基地研究委員会設立 |
| ８月 | 十勝圏航空宇宙産業基地構想研究会設立 |
| 87年８月 | 日本宇宙少年団（ＹＡＣ）大樹分団結成 |
| | 国内初の宇宙少年団国際宇宙移動大学夏期ジャンボリー開催 |
| 88年５月 | 大樹スペース研究会設立 |
| ６月 | 大樹町議会航空宇宙産業基地構想調査特別委員会設置 |
| 92年10月 | 文部省宇宙科学研究所が美成地区でロケット回収システム（グライディングパラシュート）実験を開催 |
| 93年８月 | 文部省宇宙科学研究所が小型ロケット打ち上げ実験（10月にも） |
| 11月 | 科学技術庁航空宇宙研究所ＨＯＰＥ研究チーム来町 |
| 95年10月 | 大樹町多目的航空公園オープン |
| | 科学技術庁航空宇宙研究所が実験機「ドルニエ」による初の滑走路運用評価実験 |
| 96年７月 | 同公園でドルニエによる飛行実験 |
| 10月 | 同公園で初のペットボトルロケットコンテスト |
| 97年３月 | 航技研による同公園でのＨＯＰＥ関連実験実施が、町航空宇宙産業基地研究委員会に報告 |
| ６月 | 大樹町と航技研、2003年３月末まで同公園でＨＯＰＥ―Ｘの開発実験実施協定に調印 |
| ８月 | 航技研、同公園でビーチクラフト機の運用評価実験 |
| 98年６月 | 航技研と宇宙開発事業団が同公園でドルニエによるＨＯＰＥ―Ｘ航法実験 |
| | 同公園内に航技研などの飛行実験棟完成 |
| ７月 | 同公園滑走路の舗装工事スタート |
| 11月 | 同公園滑走路（幅30ﾒｰﾄﾙ、延長１ｷﾛ）の舗装工事終了 |
| | ドルニエによる航法実験 |